

2020年12月18日
一般社団法人 日本化学工業協会

「廃プラスチックのケミカルリサイクルに対する化学産業のあるべき姿」策定

一般社団法人日本化学工業協会（所在地：東京都中央区、会長：森川宏平）は、「廃プラスチックのケミカルリサイクルに対する化学産業のあるべき姿」を策定いたしました。

あらゆる資源について循環利用の早期確立が期待される中、技術委員会*のもとに廃プラスチックケミカルリサイクルワーキンググループを設置し、経済産業省・環境省からもご参加を得て、昨年11月の第1回会合以来、ケミカルリサイクルの社会実装の課題と、実現のための方策を検討してまいりました。

プラスチックは、衛生面の確保を含め、幅広く産業や暮らしを支える有用性から、今後も多く使用され続けると想定されますが、他の資源と同様、廃プラスチックの循環利用は喫緊の課題となっています。廃プラスチックを貴重な国産資源として、プラスチックを品質劣化させることなく有効利用できるケミカルリサイクルが、真の循環型社会の構築に重要な役割を担うとの認識のもと、「廃プラスチックのケミカルリサイクル」の社会実装の本格拡大のため、2030年・2050年の目標値や、価値の可視化など社会実装の姿と、その実現のための長期戦略を定めました。

資源循環社会の構築には、社会全体で取り組むことが重要です。日化協は、本あるべき姿で定めた長期戦略を推進し、化学産業がソリューションプロバイダーとして資源循環社会の構築に貢献する姿を発信してまいります。

*：日化協内に組織された8つの業務委員会の一つ。地球温暖化やエネルギー政策など、化学産業が直面する技術的課題への対応を検討する。

以上

■本件に関するお問い合わせ先■

一般社団法人日本化学工業協会・広報部 結城、中野、高田 TEL:03-3297-2555